

8月30日は針刺し予防の日

～針刺し事故防止に私たちは何をすべきか～

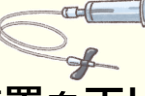


医療現場で働くみなさまへ

針刺し事故はふとした瞬間、油断すると誰にでも起こります。穿刺手技をする人だけではなく、すべての職員がリスクを持っています。リスク回避のため、決められたことをきめられたように、きちんと行い、針刺し予防行動を習慣化しましょう。

予防は
習慣に

針刺し予防のための15項目

基本は 標準予防策 手袋の装着等	1 すべての 血液・体液は 感染源になる	2 同時操作回避 の原則 針を持ったまま他の 動作を行わない	3 使用後の針 は手渡ししない
4 ひと呼吸 の原則 あわてないで 冷静に取り組む	5 作業に適した 明るさを確保	6 ゆとりある作業 スペースを確保	7 採血や点滴等 業務が集中 することを避ける
8 患者と共同作業 者の協力を得る	9 安全器材を 使用する 	10  安全装置を正しく 作動させる	11  リキャップ禁止
12 使用者廃棄 の原則 使用後の注射器は 使用者がすぐその場 で廃棄	13  耐貫通性のある 専用廃棄容器を 携行する	14 八割で廃棄 専用廃棄容器は 満杯になる前に交換	15 事故発生時は 手を止め報告 針刺し切創、血液・体液 曝露事例は必ず報告

「病院等における災害防止対策研修ハンドブック」及び「病院等における災害防止マニュアル」一部改変

針刺し事故発生時には、マニュアルに従い対応してください。患者に引っかけた、噛みつかれた場合も針刺し切創皮膚粘膜曝露マニュアルを確認の上、対応ください

